

1 単元名

五人の貴公子と難題について、説明しよう（蓬萊の玉の枝 「竹取物語」から）

2 日時

令和3年11月11日（木） 3校時

3 単元の指導目標

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもち、五人の貴公子とその難題について、説明することができる。

4 単元の評価規準

知識、技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を正しく読み、古典の世界を楽しむことができる。</p> <p>現代語訳や語注などを手がかりに、古文から登場人物の行動や考え方を読み取っている。</p>	<p>複数の資料を、登場人物同士の関係や思いに着目して読み、それらの相違点を分析し、まとめることができる。</p>	<p>複数の資料を進んで読み進め、描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p> <p>エキスパート班での話し合いを通して、自分の考えを再構築し、発表しようとしている。</p>

5 指導にあたって（課題及び指導方法の手立てと工夫）

【生徒の課題について】（生徒観）

- ・正解が何かを気にしてしまい、自信をもって自分の考えを発表したり、まとめたりすることに課題が見られる。
- ・文章中の部分にとらわれてしまい、全体を捉えることが難しい生徒が少なくない。

生徒は、小学校の学習において、「平家物語」（祇園精舎）や「枕草子」（春はあけぼの）など、有名な古典の一部を音読した経験をもっている。また、「竹取物語」のストーリーについて、「かぐや姫」を絵本で読んだり、映画「かぐや姫の物語」を観たりして、おおまかな知識があるという生徒は多い。しかし、本教材で初めて本格的に古典にふれる生徒がほとんどで、古典に対しては、文語文を読み進めていくという点において、不安を感じている面もあった。

そこで、古典で初めて出会う言葉や表現について、音読を大切に、文章のもつリズムを体感しながら、古文を読み味わわせたい。その中で、五人の求婚者に対してかぐや姫が出した難題のエピソードについて、その内容を複数の資料から読み取らせることで、読み方によっていくつもの読みや解釈があることに気づかせ、自分が見つけ、考えたことが正しいかという不安を軽減したい。また、自らの気づきを仲間と交流することで、一つ一つの言葉をどのように組み合わせ、取捨選択することで、わかりやすい表現になるのかを体感させたいと考えている。

【教材について】(教材観)

「竹取物語」は、現存する日本最古の物語であり、現代にも読み継がれ、親しまれている作品である。そして今なお、様々な形で多くの著書が出版されている。長く読み継がれている背景には、作品のもつ大きな魅力があるといえる。主人公である「なよたけのかぐやひめ」は月の世界の住人であり、美しさとともに不思議な力をもつ。また、五人の貴公子はそれぞれ強い個性があり、そのエピソードには言葉遊びも用いられており、現代に通じる人間の醜さや滑稽さを、皮肉を交えながら描いている点も興味深い。本教材「蓬莱の玉の枝」には、「竹取物語」の冒頭部分と、くらもちの皇子の冒険談、かぐや姫昇天後の部分の原文が掲載されている。「月の都」という異世界への当時の人々の憧れ、人間の欲望や貴族社会への思い等も感じることができ、その中から、現代との相違点や共通点を見出し、自分自身の考えを広げることのできる教材である。

授業では、まずは音読をすることで、古文の響きやリズムに慣れること、そして、物語がもつ魅力やおもしろさを味わうことで、古文で描かれる世界が現代の私たちの生活にもつながっていることに気づくことができるよう、授業を組み立てた。特に、教科書でふれられている「蓬莱の玉の枝」では一部分しか紹介されていない貴公子たちのエピソードを単元の中心に据え、ジグソー法を用いることで主体的な学習を進めながら、内容を理解し、その学びを交流する授業を行った。

【自分の考えをもつため】(指導観)

- ・ジグソー法の活用とエキスパート班での話し合いを取り入れることで、課題の内容をまとめ、発表することができるようにする。
- ・エキスパート活動を用いることで、同じテーマについて、仲間の意見を取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。

【a～iの9つの観点】

観点 (h・i)

「複数の条件を踏まえて書くこと (書く)」

「文章からキーワードを見つけること (読む)」

- ・文章を読み、まとめる活動が苦手な生徒は、ペアで一つの課題に向き合わせることを通して、仲間と発表内容を分担しあい、担当する課題について発表できるようにする。
- ・複数の資料に共通して登場する言葉や異なる表現 (口語訳の違い) 等を分析するとともに、仲間の着眼点を共有することで、担当した課題を具体的にイメージ化し、理解できるようにする。

6 指導計画（全7時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「竹取物語」について知る。 ○冒頭部分（古文）を音読し、古文特有のリズムに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語便覧を参照し、「竹取物語」について、作品の特徴や大まかなストーリーをおさえさせる。 ・古文の仮名遣いや古語の読みなどに注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで古文を音読しようとしている。（音読） ・正しくすらすらと音読することができる。（音読）
2	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を読み、大体の内容をつかむ。 ・三つの原文部分を音読する。 ・古典の文章と現代の文章との違いを確かめる。 ・歴史的仮名遣いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の音読に続いて、正確に音読させる。分ち読みから一文読みへと進めていく。 ・歴史的仮名遣いに印を付けさせたり、古文特有の表現や古語の意味など、気になった部分に防戦を引かせたりして確認させる。 ・個人、ペア、班、全体など様々な形態で音読させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。（音読、教科書、ノート）
3	<ul style="list-style-type: none"> ○成長したかぐや姫に対する、五人の貴公子からの求婚と、かぐや姫がそれぞれの貴公子に出した難題を理解する。 ・自分が担当する貴公子を班の中で決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書中の古文と、資料「貴公子たちの失敗談」から、それぞれの貴公子に出された難題とエピソードの概略をつかませる。 ・班の話し合いの中で担当を決めるとき、自信のない生徒は、教科書に多くの内容が書かれている「くらもちの皇子」を担当させる。もしくは、ペアを作り、二人組で一人の貴公子を調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を創造しようとしている。（ノート・話し合い）
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ジグソー法を用い、担当した貴公子の人柄、難題、エピソードについて、まとめる。 ・ジグソー法について、説明を受ける。 ・担当する貴公子のエピソードを個人でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を説明し、エキスパート活動とジグソー活動の目標を伝える。 ・それぞれが担当する貴公子について、様々な角度からアプローチできるように、教科書以外の複数の資料（古典全集、原文と口語訳、マンガ、現代語で書かれた書籍等）を準備し、活用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を活用し、課題についての自分の考えをまとめている。（ワークシート）

	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人物を担当する生徒どうしで集まり、資料を読み解く。 (エキスパート活動) ・話し合った内容を、発表原稿にまとめる。 ・エキスパート班の中で、リハーサルを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート活動の中で、それぞれの貴公子のエピソードの中から生まれた言葉を、必ず取り入れるよう指示する。 ・重なる内容、異なる内容等の情報を取捨選択し、わかりやすい説明になるように工夫し、ワークシートにまとめるよう、声かけをする。 ・タイマーを利用し、時間を意識させながら、エキスパート班の中で、発表リハーサルを行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート班の話し合いから、共通する部分や違いについて、まとめている。(ワークシート) ・伝えるべき内容を整理し、わかりやすく説明している。 (ワークシート、観察)
7	<ul style="list-style-type: none"> ○初めの班に戻り、説明する。(ジグソー活動) ・5分間で、自分の担当した貴公子について、説明をする。 ・2分間の質問タイムのち、次の担当に移る。以下、同様にして五人の貴公子についての説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明する貴公子の順番を決め、班の中で、調べた内容について説明させる。 ・タイマーを利用し、時間ごとに声をかけ、スムーズに交代できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴公子の性格や人物像について、根拠となる言動を示しながら、説明している。(発表) ・貴公子の難題への向き合い方と、その顛末について、まとめている。 ・それぞれのエピソードから生まれた言葉を、理由とともに、簡潔に説明している。(発表・観察)

7 本時の目標

- ・エキスパート活動で理解した貴公子のエピソードを、班員にわかりやすく伝えることができる。
- ・他のエキスパートの説明を聞き、他の貴公子の話を理解することができる。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	学習課題を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> かぐや姫の出した難題に、貴公子たちがどのように向き合ったのかを、説明しよう </div>			
2	本時に行うジグソー活動の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・説明者は班員の反応を見ながら、聞き手にわかりやすく伝えるように、聞き手はメモを取ったり、相づちを打つなどの反応をしたりして、説明者が話しやすい場を作るよう指導する。 	
3	ジグソー班にわかれ、説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「石作の皇子」を担当したエキスパートによる説明。他の班員は、ノートにメモをとりながら聞く。 ・説明のあと、質問があれば、エキスパートに質問をする。 ・「右大臣阿倍御主人」を担当したエキスパートによる説明。(質疑応答) ・以下、「大納言大伴御行」「中納言石上麿足」「くらもちの皇子」を担当したそれぞれのエキスパートによる説明。(質疑応答) ・感想を交流する。(振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを5分(説明)と2分(質問)に設定する。 ※「石作の皇子」では、「恥を捨てる」、「右大臣阿倍御主人」では、「あへなし」、「大納言大伴御行」では、「たへがたいこと」、「中納言石上麿足」では、「かひなし」、「くらもちの皇子」では、「たまさか」が説明の内容に入っているかを確認する。 ・机間指導を行いながら、メモを取っていない生徒に声をかける。 	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・貴公子の性格や人物像について、根拠となる言動を示しながら、説明している。 ・貴公子の難題への向き合い方と、その顛末について、まとめている。 ・それぞれのエピソードから生まれた言葉を、理由とともに、簡潔に説明している。 ※他の班員の発表・説明を聞くことで、この表現の仕方がわかりやすかった、自分もこのように言えば良かった等の、自分なりの意見をもつことができている。

9 成果と課題

(1) 成果

自分の考えを発表することに自信がもてない生徒にとっては、学習課題について、班で役割分担をして責任をもたせることは負担が大きい。しかし、エキスパート班で話し合いの時間をもち、意見交流（もしくは、わからない部分について仲間からアドバイスをもらう）をすることで、話すべき言葉を見つけることができる点は、発表への不安感を和らげ、発表への意欲につながったと感じた。また、それらの実感は、生徒が自身の発表後に受けた仲間からの意見や感想を、自分事として受け止めやすい点も効果があった。

また、従来、五人の貴公子のエピソードを扱おうとすると、講義形式で概略のみの説明となり、「竹取物語」の魅力を十分に伝えることが難しいと感じた。しかし、ジグソー法を用いることで、比較的限られた時間の中で、生徒自身が作品のおもしろさに気づきながら、積極的に学習に向き合うことができたと感じた。それとともに、インプットした内容を、アウトプットする難しさを実感し、うまく伝えたいと考え、調べたり工夫したりする生徒の姿が見られたことも、成果の一つだと考える。

(2) 課題

生徒の学習意欲を高める意図をもって、様々な「竹取物語」（古文と口語訳、小説として意識されたもの、マンガ、ネット上に公開されている口語訳等）を資料として準備、提示したが、資料の読み取りに苦勞している生徒の姿も見受けられた。それゆえに、エキスパート班のメンバーがサポートしあう姿も見られ、発表内容をまとめることはできたが、興味をもって自発的に課題について調べ、まとめる生徒と、受け身になって、それら内容を教えてもらうだけの生徒の両面があったことは事実である。生徒にとって適切な資料を提示することの必要性を改めて感じるきっかけとなった。

また、自分自身がジグソー法に不慣れなため、資料が多ければ多いほど、結果として、資料をまとめ、内容の取捨選択をするための時間が多くかかってしまったことも課題と言える。ジグソー法等の思考ツールを、授業の展開のなかに、必要に応じてピンポイントで組み込み、生徒の考えを広げるために効果的に用いることの難しさを実感した点も課題の一つだと考える。